

2 所管事項

(1) みえモデルの取組方向について

“命” と “経済” の両立をめざす「みえモデル」

分野ごとの取組方向

- I 県民の命を守り抜く感染拡大の防止
- II 雇用の維持と新しい働き方
- ☆ III 地域経済の再生と進化
- ☆ IV 安全・安心な暮らしの再構築
- V 分断と軋轢からの脱却
- ☆ VI 新たな人材育成への転換

※ ☆：県土整備部取組内容あり

Ⅲ 地域経済の再生と進化

デジタル化の波を好機ととらえ、様々な産業でデジタル・トランスフォーメーションを成し遂げていくとともに、新たな社会課題を解決していくビジネスモデルを構築していく必要がある。

第3ステージ

(5) 新たなビジネスモデルへの挑戦

○建設生産プロセスのデジタル化 (p.42)

ICT活用工事の促進やBIM/CIM(※)の導入等により、デジタル・トランスフォーメーションを通じた生産性向上や働き方改革を図るため、建設生産プロセスのデジタル化を目指して、システム環境の整備を進める。

(※) BIM (Building Information Modeling) / CIM (Construction Information Modeling)

測量、調査、設計段階から3次元モデルを導入することにより、その後の施工、維持管理更新の各段階においても3次元モデルを連携・発展させて事業全体にわたる関係者間の情報共有を容易にし、一連の建設生産・管理システムの効率化・高度化を図るもの。

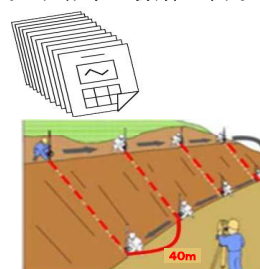
ICT活用工事の促進

従来施工

現場で作業員が図面をもとに丁張作業、丁張を目印にして建設機械を運転



出来形を人力で40m毎に計測し、結果を書類で確認

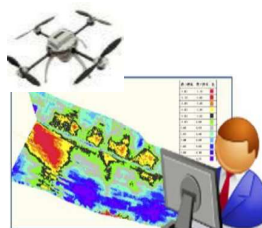


ICT施工

図面をデジタル化し、情報を建設機械に入力することで、現場作業を削減



ドローン等により出来形を3次元データで取得し、パソコンで確認



BIM/CIMの導入

測量・調査・設計

施工 (着手前)

従来

紙 (2次元) を主体とした業務



BIM/CIM

デジタル (3次元) を主体とした業務



維持・管理

施工 (完成時)

Ⅳ 安全・安心な暮らしの再構築

これからも「希望がない、選ばれる三重」であり続けるためには、安全・安心な暮らしを取り戻し、新型コロナウイルスがもたらした社会の変化に適応していくことが必要である。

第2ステージ

(1) 苦境に立つ人々への支援

○一時使用に供する県営住宅の住戸の修繕 (p.45)

県営住宅において、新型コロナウイルス感染症の影響による離職に伴い住居の確保が困難になった住民に対し即時に一時使用の提供ができるよう、既に修繕を行い入居募集している11戸に加え、さらに追加の修繕を行う。

修繕イメージ



修繕前



修繕後

Ⅳ 安全・安心な暮らしの再構築

今後は自動運転やMaaS等の次世代モビリティが一気に進展していくことが予想される。本県がこれまで取り組んできた実証実験の成果を生かし、新しい暮らしの創出に取り組んでいく。

第3ステージ

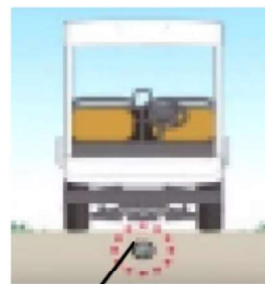
(2) 地域交通の維持等

○MaaSを見据えたオープンデータ化の促進等 (p.51)

地域経済の回復後の円滑な移動を実現するため、MaaSを見据えた公共交通データのオープン化を進める。

また、福祉等と連携した取組や、自動運転をはじめとする次世代モビリティ等を活用した取組などのモデル事業のマニュアルを活用するなどにより、円滑な移動手段の確保に取り組む地域の拡大を図る。

加えて、道路インフラ側から自動運転を支援する手法等について、県管理道路への導入を検討する。



電磁誘導線



磁気マーカ-

道路インフラ側から自動運転を支援する手法のイメージ

Ⅳ 安全・安心な暮らしの再構築

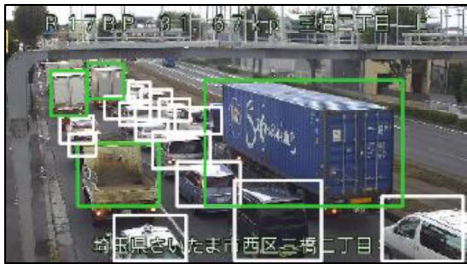
第3ステージ

(2) 地域交通の維持等

○AIを活用した道路、公園等のモニタリングの強化等 (p.51)

感染症や災害の発生時等においても、的確に情報発信等ができるよう、道路、公園等の利用状況等を迅速に収集把握するためのAIカメラ等を設置する。

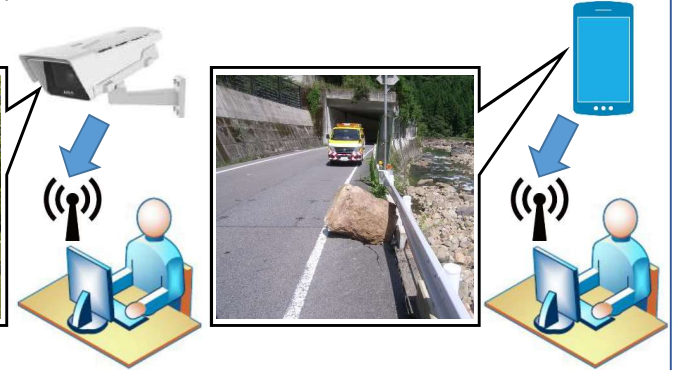
また、道路等施設の状況を遠隔で把握し、迅速に適切な管理を行うことができるよう、スマートフォン等を活用したシステム等を構築する。



道路のモニタリングのイメージ
※国土交通省資料より引用



公園のモニタリングのイメージ
※国土交通省資料を加工して作成



スマートフォンを活用した管理のイメージ
※国土交通省資料を加工して作成

Ⅳ 安全・安心な暮らしの再構築

第3ステージ

(2) 地域交通の維持等

○道の駅等での情報発信の充実 (p.52)

感染症や災害の発生時等においても、必要な情報を迅速に発信するために、道の駅等、大勢の人が利用する空間におけるデジタルサイネージの整備を官民連携により進める。

デジタルサイネージ設置イメージ



※ 高速道路SA・PAにおける設置状況



※ 屋外における設置状況 (提供:国土交通省)

Ⅵ 新たな人材育成への転換

県庁内では、今年度、庁内のスマート改革を本格的に開始している。「新しい常態」を見据え、県庁が率先して変革を進めることにより、変革の気運を三重県全体に波及させることが急務である。

第3ステージ

(2) 産業人材等の育成

○リモート環境の整備 (p.61)

対面での接触を回避し、感染拡大を防止しながら移動時間等を削減することで、公共事業の工事や委託業務の受発注者双方の生産性向上を図るため、立会い、協議、検査を遠隔で実施できるようにリモート環境の整備を進める。

